

MOTTAINAI (もったいない)

“人間信頼”が基本 「友達やないか！ 水くさいこと言うな！」

1948年12月10日、国際連合の第3回総会で「世界人権宣言」が採択されました。第5回総会では、12月10日を「人権デー」と定め、日本では12月4日から10日までを「人権週間」と定め、世界人権宣言の趣旨と重要性を国民に訴えることになりました。

先日、大阪府内の公立小中学校長に対して、人権研修会がありました。在日外国人教育と障がい者理解教育について、それぞれの当事者からお話を聞きました。お二人とも、ご自身の生き立ちを踏まえ、具体的にとても良いお話しでした。

今回は、私と同年代（50代後半）の障害のある当事者の方のお話しを紹介します。

8ヶ月の仮死早産で生まれ、脳性まひの障害が残ったそうです。当時は、地域の学校に就学するという選択肢はない時代でした。それどころか、「就学猶予」ということで、障害のあるお子さんの就学が、義務教育の枠から外されたお子さんもたくさんいた時代でした。この方は、支援学校（当時の養護学校）の小学部に進まれました。

中学進学を控え、養護学校の先生が、「君は、是非、地域の中学校で勉強しなさい！」と強く勧められ、地域の中学校に相談に行かれました。その時の学校の対応は、「いっさい特別扱いはいしません」「何でも一人でやって下さい」、そして、その内容を誓約書として、提出を求められたそうです。

音楽室のある4階に、松葉杖をたよりに移動すると、いつもチャイムが鳴ってから音楽室についたそうです。そんなある日、一人の友達が、「音楽室に行くの、一緒に行こう！」と声をかけてくれたそうです。その方は、誓約書のこともあり、「一人でいかなあかんねん」と返すと、「俺ら友達やないか！水くさいこと言うな！」との言葉が返ってきたそうです。音楽室の行き帰りはもちろん、休みの日に一緒にまちに出かけたり、友達とレコードの貸し借りをしたり、青春というにふさわしい楽しい日々だったようです。

しかし、信州方面への修学旅行には、「もし、ケガをしたら」ということで、一人、毎日学校での自習だったそうです。この時ばかりは、悔しい情けない思いがつのったそうです。

その方が、最後に次のように締めくくられました。「今、私は、当事者団体の中心メンバーとして活動しています。そして、国・内閣府の審議委員として、この社会を誰もが暮らしやすい社会にしようと活動・運動できるのは、中学校で友達からいわれたあの言葉“人間信頼”が土台になっています。」と。

ピグマリオン効果と挨拶

ピグマリオン効果とは、1964 年に米国の教育心理学者ロバート・ローゼンタールによって提唱された、「人間は期待された通りの成果を出す傾向がある」という主張です。

生徒を「ほめるグループ」「ほめないグループ」に分けた実験をし、その後の成績結果から、その効果が明らかになったそうです。生徒たちは自分に向けられる期待を敏感に感じて「やる気」を出して勉強に励んだり、「やる気」を失ったりしていたということになります。

しかし、ほめるというのも、非常に難しいことです。人間のコミュニケーションでは、「言葉以外の非言語な要素で話し手の93%の印象が決まってしまう」と言われています。言葉よりもそれ以外（表情、しぐさ、視線、声の質、テンポなど）の部分により、本音かどうかが相手に伝わるといことです。そのような仕草から、嘘のない期待を読み取るのでしょう。

その意味で、「おはよう」「さようなら」「ありがとう」等の挨拶は、自然と相手への敬意が伝えやすいものです。

ビジネスでも、「挨拶のしっかりできる会社は、業績もいい」とよく言われていますが、会社も学校も家庭もそうではないでしょうか？

「おはようございます」「ありがとう」は、いつでも、どこでも、始められます。ピグマリオン効果も期待できそうです。さらに、無料です。

こだまでしょうか

東北の震災がおきた年、TVの公共広告機構のCMで、金子みすゞの「こだまでしょうか」の詩が流れました。

人と人が、互いを思いやり助け合うメッセージとして、反響を呼びました。

子どもさんと、是非、読んでみて下さい。

こだまでしょうか

作：金子みすゞ

「遊ぼう」とていうと

「遊ぼう」とていう。

「馬鹿」とていうと

「馬鹿」とていう。

「もう遊ばない」とていうと

「もう遊ばない」とていう。

そして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」とていうと

「ごめんね」とていう。

こだまでしょうか、

いいえ、誰でも。